

福山大学 安全安心防災教育研究センター 令和元(2019)年度 自己点検・評価書

基準1. 理念・目的

領域: 使命・目的、教育目的

2019年度

安全安心防災教育研究センター

中長期計画	「福山大学安全安心防災教育研究センター」(以降、当センターと記する)は、福山大学学則第3条の2に則り設置されており、「福山大学安全安心防災教育研究センター規程」第1条の設置の趣旨、第2条に示された設置目的は、福山大学の建学理念、目的に沿ったものである。今後5年間の期間を以って、当センターの理念、目的、更には、教育目標を大学構成員だけでなく社会一般にも理解していただけるように、他大学や自治体、教育委員会、企業、地域、住民、学生等に公表する機会を増やしていく。
-------	--

2019年度

安全安心防災教育研究センター

中点検項目	1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等は、それぞれの使命・目的および教育目的を設定していますか。
点検項目	① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。
現状説明	福山大学研究推進委員会の設立に伴い、その目的に則って当センターの規程の改正を実施しており、「福山大学安全安心防災教育研究センター規程」第1条の設置の趣旨、第2条に示された設置目的は、福山大学の建学理念、目的に沿ったものとなっている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	センターの使命を具現化する運営を行っている。
達成度	A
改善課題	なし
根拠資料	①安全安心防災教育研究センター運営委員会議事録(第1回～第6回)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 個性・特色を明示していますか。
現状説明	ソフト防災研究、ハード防災研究、防災教育の3方向に亘る防災への取り組みを行う2部門と、環境、福祉等スマートコミュニティーに関わる1部門を設置して、取り組みを明示的に行うと共にHPにその目的、役割を明記している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	ひと・まち・くらしプロジェクトとして、大学優先課題(里山・里海学)、国土交通省包括連携契約による研究による環境、防災に関する取り組みを行い、HPに取り組みを明示している。
達成度	A
改善課題	なし
根拠資料	①平成30年度安全安心防災教育研究センター活動報告書、②センターHP
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。
現状説明	センター運営委員会を6回定期的に開催し、センター及び各部門の理念・目的が社会の要請や背景に対し適切性を保持しているか検討を行っている。
年度目標	現状を維持する。

年度報告	センター運営委員会を6回定期的に開催し適宜議論を行っている。
達成度	A
改善課題	なし
根拠資料	①安全安心防災教育研究センター運営委員会議事録(第1回～第6回)
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

安全安心防災教育研究センター

中点検項目	1-2. 使命・目的および教育目的の反映
点検項目	① 使命・目的および教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。
現状説明	年度初めに自己点検計画と共に使命・目的を周知している。
年度目標	継続して実施する。
年度報告	年初の運営委員会にて自己点検計画の周知を行った。
達成度	A
改善課題	なし
根拠資料	① 平成31(2019)年度第1回安全安心防災教育研究センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学内外へ公表し、周知していますか。
現状説明	サイトの管理体制を明確化して充実化検討を行い、センターのサイトの見直し・充実化を実施している。
年度目標	大学HPの刷新に伴い、該当階層のHPの刷新を行う。
年度報告	センターのHPを刷新した。
達成度	A
改善課題	なし。
根拠資料	①福山大学HP
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 中長期的計画に反映していますか。
現状説明	運営委員会にて定期的に検証を行っている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	なし
根拠資料	①安全安心防災教育研究センター運営委員会議事録(第1回～第6回)
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	④ 三つのポリシーに反映していますか。
現状説明	センターは研究組織であり3ポリシーは所有しないが、その目的・使命は。大学のポリシーと母体である工学部のポリシーに沿うものとなっている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	なし
根拠資料	①学生便覧2019(工学部の3ポリシー)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。
現状説明	毎年兼任教員の見直しを行い、整合性を確保している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	兼任教員の見直しを実施した。
達成度	A
改善課題	なし
根拠資料	①平成31年度兼任教員
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

安全安心防災教育研究センター

基準2. 学生

領域: 学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応

2019年度

安全安心防災教育研究センター

中長期計画	
-------	--

2019年度

安全安心防災教育研究センター

中点検項目	2-1. 学生の受入れ
点検項目	① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受入れの改善に生かしていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 入学生受入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。出来ていない場合、どのような対策を実施していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

安全安心防災教育研究センター

中点検項目	2-2. 学修支援
点検項目	① 学修体制の整備のため、どのような教員と職員等の間でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	

達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

安全安心防災教育研究センター

中点検項目	2-3. キャリア支援
点検項目	① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 卒業生の進路に関する過去3年間にわたる資料を収集し、検証していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	③ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取り組んでいますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

安全安心防災教育研究センター

中点検項目	2-4. 学生サービス
点検項目	① 学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 種々のハラスメントの発生防止に取り組んでいますか。
現状説明	運営母体である工学部と連動して実施している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	工学部との連動体制を継続した。
達成度	A

改善課題	なし
根拠資料	①福山大学キャンパスハラスメントの防止等に関するガイドライン
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取組みを行っていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

安全安心防災教育研究センター

中点検項目	2-5. 学修環境の整備
点検項目	① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施していますか。
現状説明	運営母体である工学部と連動して実施している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	本センターに関わる30号館のバリアフリー化を工学部と連携して予算要求したが、見送りとなった。
達成度	A
改善課題	なし
根拠資料	①令和2年度工学部予算要求書
次年度の課題と改善の方策	引き続き工学部と連動し、整備を検討していく。
点検項目	② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。
現状説明	センター管轄の施設をプロジェクトスペースに割り当て、センター所管のプロジェクト「ひと・まち・くらしプロジェクト」にて活用している。
年度目標	プロジェクトの見直しを行い、活用の適切化を実施する。
年度報告	ひと・まち・くらしプロジェクトの公募を行って新規テーマ1件を含むプロジェクト再編を行い、プロジェクトスペースを割り当てを行う事でプロジェクトスペースの活用の最適化が図れた。
達成度	A
改善課題	なし
根拠資料	①安全安心防災教育研究センター運営委員会議事録(第5回)
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティスペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取組んでいますか。
現状説明	施設整備に関しては、運営母体である工学部と連動して実施している。アメニティに関しては研究センターのため、工学部に一任している。
年度目標	継続して工学部と連携し、本センターに関するバリアフリー化を検討する。
年度報告	工学部と連携し、30号館のバリアフリー化の予算要求を行ったが、見送りとなった。
達成度	A
改善課題	30号館にはエレベーターが無く、バリアフリー化ができていない。
根拠資料	①令和2年度工学部予算要求書
次年度の課題と改善の方策	大学全体の整備計画を考慮の上、予算要求の要否を検討する。
点検項目	④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。
現状説明	授業の主体は工学部であり、設備の管理も運営母体である工学部が主体となっている。このため、工学部と連携して管理を行っている。
年度目標	継続して工学部との連携管理を行う。
年度報告	問題となるような学生数の変動はなく、継続した管理を行った。
達成度	A
改善課題	なし
根拠資料	①工学部卒業生アンケート結果・在学生アンケート結果
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。
現状説明	30号館及び8号館の防災・防火点検を実行している。
年度目標	安全安心防災教育研究センターのスマートコミュニティ教育研究部会活動及び安全衛生委員会の活動をコラボする形で建屋の点検と在留可能建屋の指定を実行し成果を出す。全学での対応と内容を合わせる。
年度報告	危機管理委員会と自然災害発生時のリスクを下げる活動を開始したが、建屋の点検と在留可能建屋の指定には至らなかった。全学的な活動への展開には課題が多いと判明した。
達成度	B
改善課題	危機管理委員会と共同でリスク低減成果を出す方策を打ち出すことが課題である。
根拠資料	①2019年7月17日 危機管理委員会平教授主催の危機管理基本マニュアル改訂作業のためのミーティング(会議メモ)
次年度の課題と改善の方策	1. 全学的な建屋の点検、在留可能建屋指定実施に向けた具体的な年度計画を立てる。 2. 危機管理委員会との共同でリスク低減策を検討するWGを作り活動する。
点検項目	⑥ 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。
現状説明	30号館及び8号館における危険物管理は実行しているが、管理システム整備は全学レベルで検討中である。
年度目標	危機管理として全学対応に合わせて确实かつ効率的に検討と整備を実施する。

年度報告	全学の危険物管理システムは整備途上であり、従来どおりの施設内危険物管理を実行したが、資料は残していない。
達成度	B
改善課題	全学の危険物管理システムに合わせた管理方法の検討
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	全学の危険物管理システムの整備で施設内危険物管理が効率的かつ確実に実行できるように前広に関与していく。
点検項目	⑦ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。
現状説明	全学の自然災害対応マニュアルが学生、教職員に配布され、運用フェーズに入っている。
年度目標	避難可能居室指定を実施する。マニュアルを有効に機能させるため、周知を徹底する。
年度報告	全学の避難可能居室の検討を開始したが、具体的に指定する文書発行に至っていない。全学での避難訓練は行われたが、自然災害対応マニュアルに沿ったものになっていない。
達成度	B
改善課題	自然災害対応マニュアルの周知徹底活動と避難訓練を全学対応として展開する。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	1.安全衛生委員会と共同で安全衛生管理のしおり を改訂する。 2.安全衛生委員会と共同で自然災害対応マニュアルの周知徹底活動を計画する。 3.上記②の計画に沿って、自然災害対応マニュアルの講演を行い、避難訓練も前向きに計画から参画し実行する。

2019年度

安全安心防災教育研究センター

中点検項目	2-6. 学生の意見・要望への対応
点検項目	① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	

改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

安全安心防災教育研究センター

基準3. 教育課程

領域: 卒業認定、教育課程、学修成果

2019年度

安全安心防災教育研究センター

中長期計画

2019年度

安全安心防災教育研究センター

中点検項目	3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定
点検項目	① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準(ルーブリック等の評価指標を含む)等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	

達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

安全安心防災教育研究センター

中点検項目	3-2. 教育課程及び教授方法
点検項目	① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	⑤ 教授方法を工夫・開発(ICTの活用を含む)し、効果的に実施していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	⑥ ディプロマポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	

次年度の課題 と改善の方策	
------------------	--

2019年度

安全安心防災教育研究センター

中点検項目	3-3. 学修成果の点検・評価
点検項目	① 全学及び各学科等のアセスメントポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックはどのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題 と改善の方策	

2019年度

安全安心防災教育研究センター

基準4. 教員・職員

領域: 教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援

2019年度

安全安心防災教育研究センター

中長期計画	当該センターの理念を具現化し、かつ、学内および学外との円滑かつ効果的な連携を図ることができるガバナンスおよびマネージメントが行える管理体制を構築すると共に、教職員の資質の向上を図る。 大型の研究施設、研究設備および研究機器等に関しては、研究プロジェクトの実施などをおして整備する。研究費、備品費等に関しては、研究プロジェクトの実施、各種補助金、共同研究、受託研究、研究助成寄付金および年度予算によって賄う。
-------	--

中点検項目	4-1. 教学マネジメントの機能性
点検項目	① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネージメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。
現状説明	当該センター規程に、学長がセンター長および運営委員の任命権限を有する事が明記されている。また、上位組織である学長が委員長である研究推進委員会において研究プロジェクトに対するマネジメントを受けている。センター長は運営委員会の委員長として、学長の指針に沿った教学マネジメントを遂行している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	なし
根拠資料	①福山大学規程
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。
現状説明	年度の初頭に各運営委委員の担当を明確にし、役割に添ったマネジメントを実施している。
年度目標	継続して実施する。
年度報告	年初の運営委員会にて運営委員の役割を明示した。
達成度	S
改善課題	なし
根拠資料	①平成31(2019)年度第1回安全安心防災教育研究センター運営委員会議事録及び資料(メンバーリスト)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネージメントの機能性を高めていますか。
現状説明	職員の役割りはセンター規程に明記されており、教学マネージメントの機能性を高めている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	なし
根拠資料	①福山大学安全安心防災教育研究センター規程
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	4-2. 教員の配置・職能開発等
点検項目	① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成(性別、年齢、職階等)となっていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ FD(Faculty Development; 教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取り組みを行っていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	4-3. 職員の研修
点検項目	① SD(Staff Development; 教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取り組みを実施していますか。
現状説明	工学部、全学のFD・SD研修に参加することにより、教職員の資質・能力向上と教職協働を図っている。

年度目標	継続してFD・SD研修への参加を推進する。
年度報告	運営委員は本務でのFDおよび大学全体のFD・SDにて資質向上を図った。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①工学部第1回FD研修会報告書、②工学部第2階FD研修会報告書、③FD 活動報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学運営の効率改善のために ICTの活用を推進していますか。
現状説明	情報共有にOffice365を活用している。
年度目標	更に活用の頻度を上げると共に、Karinの積極運用を図る。
年度報告	Karinにて運営委員会資料、ひと・まち・くらしプロジェクト資料を格納するようにした。
達成度	A
改善課題	なし
根拠資料	①福山大学キャビネットKarin
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

安全安心防災教育研究センター

中点検項目	4-4. 研究支援
点検項目	① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。
現状説明	研究スペースに関しセンターの所管するスペースを研究プロジェクトに割り当てて研究の環境を整えている。研究専念時間に関しては本務である工学部と連携して検討している。
年度目標	継続して研究スペースの割り当てを実施すると共に、研究専念時間の捻出のための業務効率化を工学部と連携して検討していく。
年度報告	研究スペースの割り当てを行って、研究効率向上の支援を行った。研究専念時間の確保に関しては、対策が立案できていない。
達成度	B
改善課題	研究専念時間の確保
根拠資料	①平成31年度第5回安全安心防災教育研究センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。
現状説明	福山大学学術研究倫理審査委員会規程に則って厳正に運営している。
年度目標	継続して厳正な運営を行う。
年度報告	厳正な運営を継続しており、審査の必要な事案は発生しなかった。
達成度	A
改善課題	なし

根拠資料	①福山大学学術研究倫理審査委員会規程
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。
現状説明	福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクトへの課題申請、予算申請を運営委員会にて審議し、研究推進委員会にて承認されたものを工学部事務にて適正に運用している。
年度目標	継続して運用する。
年度報告	予算申請を行い、承認された年度予算を適正に運用した。
達成度	A
改善課題	なし
根拠資料	①平成31年度安全安心防災教育研究センター予算要求書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 公的研究費の運営・管理(ガイドライン等)が整備され、周知されていますか。
現状説明	福山大学公的研究費取扱規則が周知されており、規則に則り工学部事務にて運用されている。
年度目標	継続して周知と整備に努める。
年度報告	全学的方針に従い運用した。母体である工学部にて研究倫理教育を実施した。
達成度	A
改善課題	なし
根拠資料	①福山大学公的研究費取扱規則、②工学部研究倫理コンプライアンス研修実施報告書
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

安全安心防災教育研究センター

基準6. 内部質保証

領域： 組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル

2019年度

安全安心防災教育研究センター

中長期計画	安全安心防災教育研究センターの教育、研究プロジェクトに関しては、平成26年度より構成された自己点検評価委員会がそれらの活動及び成果の自己点検を行い、評価書の作成、公表を行っている。この自己点検評価を軸にPDCAサイクルを回し、改善及びその達成の検証を定着化させることで、教育及び研究活動の内部質の保証、向上を行う。
-------	---

2019年度

安全安心防災教育研究センター

中点検項目	6-1. 内部質保証の組織体制
点検項目	① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。
現状説明	センター自己点検評価委員会が組織されており、体制が明確化されている。
年度目標	体制を継続する。
年度報告	体制を維持継続した。

達成度	A
改善課題	なし
根拠資料	①福山大学安全安心防災教育研究センター規程
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

安全安心防災教育研究センター

中点検項目	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価
点検項目	① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。
現状説明	センター自己点検評価委員会の手続きに則った点検評価を受けており、その結果はセンター運営委員、兼任教員に周知され認識を共有している。
年度目標	継続してセンター自己点検評価委員会による点検を行い、内部質保証に努める。
年度報告	継続して自己点検を行い、内部質保証に努める。
達成度	A
改善課題	なし
根拠資料	①平成31年度安全安心防災教育研究センター自己点検評価書、平成31年度第1回安全安心防災教育研究センター運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。
現状説明	IR委員会により、項目が抽出されており、その運用の開始段階にある。
年度目標	IR室と連携し、IRデータの取得方法を確立する。
年度報告	研究成果件数、資金獲得状況の情報を収集し、活動報告にて関係教職員にフィードバックした。
達成度	A
改善課題	特になし。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	特になし。さらに推進する。

2019年度

安全安心防災教育研究センター

中点検項目	6-3. 内部質保証の機能性
点検項目	① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み(システム)をどのように確立し、その機能性を検証していますか。
現状説明	研究推進委員会(学長)を中心とする大学の研究プロジェクトのPDCAサイクルの中で、センターとしてのPDCAサイクルを回す仕組みを構築している。
年度目標	運営委員会、自己点検委員会にて着実なPDCAサイクルを遂行する。
年度報告	運営委員会及び自己点検委員会にて、PDCAサイクルを実行した。
達成度	A

改善課題	なし
根拠資料	①安全安心防災教育研究センター運営委員会議事録(第1回～第6回)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。
現状説明	運営母体である工学部の体制に従っている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持し、工学部の体制に従ってコンプライアンス確立に努めた。
達成度	A
改善課題	なし
根拠資料	①研究関連ガイドブック、②福山大学キャンパスハラスメントの防止等に関するガイドライン
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

安全安心防災教育研究センター

基準7. 福山大学ブランディング戦略

領域: 「福山大学ブランディング戦略」の点検・評価 (本学独自基準)

2019年度

安全安心防災教育研究センター

中長期計画	<p>備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる「未来創造人」を育成するという、大学全体の方針に則り、工学の立場から瀬戸内の里山・里海学プロジェクトへの参画、ひと・まち・くらしの創造、安全安心な暮らしの創造を柱として本学のブランディングの推進に貢献する。</p> <p>具体的には、「瀬戸内の里山・里海プロジェクト」として、藻場探査、養殖システム、地域遺産の保全と継承、里の災害対策、介護システム、および特別研究としての交通安全の各プロジェクトの支援を行い、この成果を以て地域への貢献を行う。</p>
-------	--

2019年度

安全安心防災教育研究センター

中点検項目	7-1. 福山大学ブランディング戦略の推進
点検項目	① 福山大学ブランディング戦略 (ver. 2018) の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。
現状説明	全学教授会における説明により全教員に周知されており、母体の工学部より授業や卒業研究を通じて学生への周知も行っている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	なし
根拠資料	①平成31年度第9回全学教授会資料 ②平成30年度安全安心防災教育研究センター活動報告 ③2019年度卒業研究論文
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② 福山大学はブランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との差別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からブランディングにどのように取り組んでいますか。
現状説明	私立大学研究ブランディング事業、企業との共同研究、公的資金による研究とその成果により広く本学のプレゼンスを示している。
年度目標	私立大学研究ブランディング事業及びその他の研究プロジェクト、企業との共同研究、公的資金による研究を深化させ、それをより多くの媒体を通じて開示する事により本学のブランド力向上を図る。
年度報告	私立大学研究ブランディング事業に、藻場探査ロボット、藻場環境計測システム、衛星画像利用藻場探査の開発遂行により貢献した。また、国土交通省中国地方整備局の包括連携による委託研究を、道路、河川に関し受託した。
達成度	S
改善課題	なし
根拠資料	①私立大学ブランディング事業報告(福山大学HPに掲示) ②国土交通省受託研究依頼書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 福山大学ブランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取り組んでいますか。
現状説明	企業との共同研究、公的資金による研究によって産学官民連携を推進し、里山、里海という地域の教育研究資源を最大限に活用して学生研究を実施する事で未来創造人たる学生を輩出することを目標として取り組んでいる。
年度目標	共同研究、受託研究の実施により連携を深化させる。
年度報告	国土交通省より地域の道路交通、芦田川をテーマとした受託研究を獲得した。また、里山・里海学のテーマで卒業研究により取り組んでいるものに対し、プロジェクトスペースの提供により、推進に協力した。
達成度	A
改善課題	なし
根拠資料	①国土交通省受託研究契約書 ②卒業論文 ③ひと・まち・くらしプロジェクト申請書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 福山大学ブランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目標としています。この目標の実現に向けて、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	私立大学研究ブランディング事業、福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクト、企業共同研究、公的資金による研究を通じ本学が知の拠点となるべく活動を行っており、成果は年度終了時に実施される活動報告で検証するようにしている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	報告書を作成し、関係先に配布した。
達成度	A

改善課題	なし。活動報告を継続して実施する。
根拠資料	①平成30年度安全安心防災教育研究センター活動報告
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 福山大学ブランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	地域の特色に基づいた研究や地域企業との共同研究による地域の中核となる職業人の育成に取り組んでおり、年度終了時の活動報告により検証する。
年度目標	各研究事業で着実に成果を上げると共に地域との連携事業の拡大を図る。
年度報告	「瀬戸内の里山・里海学」に関わる地域の特色に基づいた研究を推進しており、それを卒業研究とすることで、「地域の中核となる幅広い職業人」の育成を行っている。また、上記活動を含む報告書を作成し、関係先に配布した。
達成度	A
改善課題	なし。活動報告を継続して実施する。
根拠資料	①平成30年度安全安心防災教育研究センター活動報告、 ②スマートシステム学科里海関連卒業研究論文
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	広島県警、国土交通省中国地方整備局等との連携研究に取り組んでおり、年度終了時の成果報告により検証する。
年度目標	各研究事業で着実に成果を上げると共に地域との連携事業の拡大を図る。
年度報告	国土交通省との包括連携契約に基づく受託研究の報告書を作成し、国土交通省の検証を受けた。広島県警との共同研究に関しては本年は実施せず、ひと・まち・くらしプロジェクト内での実施とした。
達成度	A
改善課題	なし。
根拠資料	①受託研究「芦田川の二極化抑制のための河道計画に関する研究」完了報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	プロジェクト研究を推進させることで、研究に取り組む学生に、課題に向けた取り組み姿勢や発想、関係者との人間関係の構築など、学問だけでない成長を促すことを図っており、年度終了時の成果報告、関連卒業研究により検証する。
年度目標	継続して実施する。
年度報告	プロジェクト研究に関しては年度終了時に活動報告書を作成している。また、関連の卒業研究に関しては、卒業論文により成果を検証している。
達成度	A
改善課題	なし

根拠資料	①平成30年度安全安心防災教育研究センター活動報告 ②卒業論文
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

安全安心防災教育研究センター

中点検項目	7-2. 福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクト
点検項目	① 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取り組んでいますか。
現状説明	私立大学研究ブランディング事業及び「瀬戸内の里山・里海学」優先課題①の研究分担者として、また優先課題②の研究代表者としてセンター兼任者が取り組んでいる。
年度目標	各研究プロジェクトにて着実な成果を上げる。
年度報告	センター兼務者が研究に取り組み、その活動内容をセンターの活動報告書及び研究プロジェクトフォローシートにて報告した。
達成度	A
改善課題	なし
根拠資料	①平成30年度安全安心防災教育研究センター活動報告、②2018年度、2019年度福山大学研究プロジェクト フォローシート
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 福山大学ブランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。
現状説明	私立大学研究ブランディング事業の経費補助、研究プロジェクト優先課題、特別研究に申請している。
年度目標	現状資金の他に、個別プロジェクトにて外部資金の獲得に挑戦する。
年度報告	2020年度の研究プロジェクト優先課題に申請し、内部資金を獲得した。国土交通省の包括連携契約による委託研究、サタケ財団助成、兼任教員による科研費等により外部資金の獲得があった。
達成度	A
改善課題	なし
根拠資料	①令和2年度予算要求書、②国土交通省委託研究契約書、③科研費採択通知
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 福山大学ブランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。
現状説明	社会連携センター主催の研究成果発表会、Webページのサイト、新聞記事にて公表している。
年度目標	現状を維持し、より多くの発表となるよう努める。
年度報告	福山大学研究成果発表会にてセンターのエリアを設けて成果の公表を行った。Webサイトに成果報告書を掲載して社会に公表した。
達成度	A
改善課題	なし
根拠資料	①福山大学研究成果発表集、②福山大学Webサイト

次年度の課題 と改善の方策	
------------------	--